

昭和音楽大学短期大学部における実践的キャリア教育

准教授 鈴木二美枝（ピアノ）

専任講師 石綿 絵美（ピアノ）

学生達は、日本における基本的な教育期間である小・中・高等学校の6・3・3制において、各時代の変化する社会情勢、社会環境の影響を受け、様々に出される教育方針に沿って教育を受けてきている。

近年では、「ゆとり教育」が大きく印象に残っている。この「キャリア教育」についても然りである。

将来を担う子供達に、厳しい社会の変化への適応力、主体的な自己進路選択・決定、社会人としての自立力を育成すること等を目的に、小学生の時点から既に授業や特別講座等により「キャリア教育」を受けてきているのである。

具体的には、小学校においては「お父さんお母さんお仕事講座」として、PTAに協力を得て職業をピックアップし、ご父母が子供達に年齢に応じて職業紹介をし、職業種類等の知識を得るのである。また、地域探検と称して、実際に地域環境を知る事等を目的に、どのような街作りがなされているかをグループで情報収集をする授業も盛り込まれている。その他、国会議事堂や公的機関等の見学も経験するのである。

中・高等学校における職業紹介では、職業に就くための進路選択や資格等も具体化された内容で、社会人・職業人を身近に感じられる講座等もある。中には現実的にどのような人材が求められているかを直接聞く事もあるのである。また、進路選択の為に、主要大学から有名教授を招聘して、大学の講義を高等学校で受講することもある。学校外では、「エリート塾」なる高校生による合宿形式の特別な体験も可能である。そこでは、国会を形成しテーマに沿って議論を繰り広げ、学校では経験しないであろう内容を盛り込んだ「キャリア教育」もあるのである。

このように、学習とその先にある社会人への関心や意欲を高めることを目的とした教育を受けてきているのである。それでも、一般大学においては、大学で自分探しをしながらの就職活動がなされているのも現実である。

本学の学生達は、これらの教育を受けた上で、自身のスキルから音楽大学を選択し、音楽人としての社会人を目指し、研鑽を積んでいるのである。このような、学生達に対して、音楽大学で学んだことにより高められる人間力を目的とした音楽人教育が意識されたカリキュラムの検討がなされることは、大切ではないだろうか。

本共同研究中間報告において、～本学における実践的キャリア教育への考察～として、キーワードの「2年間」、「実用性」、建学の精神「礼・節・技の人間教育」を柱に「短期大学部における実践的キャリア教育」に焦点を絞り論じた。そこから、2年目は、「2年間」を社会進出への育成機関とする視点から、音楽人育成のための「短期大学部における実践的キャリア教育」について、具体的に科目として研究検討した。

世の中の構造的変化により、キャリア教育という意識が高まり、「面接対策」「企業研究」

などこれまでの大学の授業に含まれなかったような内容が、今や当然のごとく授業科目として開設されている。大学生向けキャリア教育用教科書も出版され、勤労観や職業観を育てていく試みが各大学で行われている。

本学学生の卒業後進路は、進学、留学、就職と多様であり、身につけるべきスキルはかなり広範囲にわたる。本学卒業生は、就職先も「音楽」を主とした職業のほか、一般企業となるケースも多く、まさに三者三様の進路となる。短大の2年間で学べることに限りがあるとしても、さまざまな機会を与えて知的好奇心を刺激し、職業に就いてからも自ら主体的に向上していけるような人間教育を念頭に置いておく必要がある。

本学学生に対する特色あるキャリア教育のポイントとして、以下のような要素があてられる。

- ① 基本的な対人コミュニケーション（挨拶、言葉づかい、手紙の書き方、敬語の正しい使い方などの実践的日本語教育、TPO 判断・・・）
- ② 指導者として幼児、小学生、中学生、高校生、一般～高齢者への実技指導等対応（年齢別等による言葉かけのテクニックやコミュニケーション方法等）
- ③ 老人施設や保育施設等での音楽コミュニケーション（言葉かけ、演奏、指導、プログラミング等・・・）
- ④ さまざまなトラブル対応
- ⑤ ステージマナー
- ⑥ 就職活動準備（履歴書、音楽歴の書き方等）

※①②③はそれぞれ英語によるコミュニケーション方法にも対応する。

以上のような要素を基本として、大きな項目に分類し、具体的内容を考察した。

● 日本語リテラシー

「ノートの取り方」「文章の読解」「レポート作成」といった基本的な事柄を学び、スムーズな大学の授業受講を促す。「敬語表現」や「手紙の書き方」を学び、ビジネス上必要なスキルを習得する。

● コミュニケーション

実際に人と接する場面で円滑なコミュニケーションがとれるよう「挨拶」や「日常的マナー」を学ぶ。ビジネスにおいてもより魅力的に振る舞えるよう「ビジネスマナー」や「電話応対」も学ぶ。対人間において好印象を与えるために社会人として相応しい「ファッション・メイク」や「魅力的な話し方」なども学ぶ。

● 就職活動

就業力に直接結びつく事柄として、就職活動とはそもそもどういうものなのか理解した上で、どのような流れで行うのか、またどのような職種があるのか「職業調査」し、実際に「履歴書作成」なども行う。さまざまな分野で活躍する卒業生から話を聞いた、学生個々が選んだ社会人にインタビューを行い、キャリアデザインを学ぶ。

● 英語

西洋音楽を専攻していることから留学あるいは海外の講習会に参加するなどの機会も積極的に持てるよう「あいさつ」や「文化習慣の相違」などを学び、「海外のコンクールや講習会の要項」を読んでいく。模擬的に日本語以外でレッスンを受講する。海外に留学・就職を希望するケースを想定し「英語による手紙やメールの書き方」や「英語によるポートフォリオ作成」を学ぶ。

● 音楽を主とした職業

指導者となった時に直面する「レッスンを題材としたケーススタディ」やアウトリーチ活動を念頭においた「グループを対象としたケーススタディ」を行い、実際に起こりうる問題に対処する力を養う。

● 一般企業

「自己分析」をして自己や適性を知り、どのような可能性があるのかを理解し、「エントリーシート作成」で自己アピール方法を学ぶ。また就職活動におけるアピールポイントの一つとなる「TOEIC 等の語学資格について」や「語学修得法」について学ぶ。

● 情報リテラシー

職種を問わずパソコンを用いて「Word」「Excel」等を使いこなすスキルは必須である。また「PowerPoint」を用いて簡易なプレゼンテーション能力を養う。

● 一般教養

女子学生が多いという特色から「手話」「点字」「茶道」「食事マナー」など一般教養的な内容も含め、好奇心旺盛な豊かな人間性を育むことにも配慮を施す。

以上のような観点から実際のシラバスを作成した。それぞれ 15 回ずつの半期科目として A は必修に、BCD は各自の進路に合わせて選択科目とする。

A1	キャリア教育について	ガイダンス
A2	日本語リテラシー 1	ノートの取り方
A3	日本語リテラシー 2	文章の読解・要約
A4	日本語リテラシー 3	敬語表現(正しい敬語) 1
A5	日本語リテラシー 4	敬語表現(正しい敬語) 2
A6	日本語リテラシー 5	口頭表現(魅力的な話し方)
A7	日本語リテラシー 6	手紙の書き方
A8	日本語リテラシー 7	レポート作成
A9	コミュニケーション 1	あいさつ・マナー
A10	コミュニケーション 2	美しい振る舞い・ファッション・メイク等
A11	コミュニケーション 3	電話対応・ビジネスマナー

A12	コミュニケーション 4	手話 1
A13	コミュニケーション 5	手話 2
A14	コミュニケーション 6	点字 1
A15	コミュニケーション 7	点字 2

B1	ベーシック 1	就職活動とは
B2	ベーシック 2	就職活動の流れ
B3	ベーシック 3	職業調査
B4	ベーシック 4	履歴書作成
B5	ベーシック 5	職業調査発表
B6	講演 1	就職に関する講演(ゲスト講師による)
B7	講演 2	国際コミュニケーションに関する講演(ゲスト講師による)
B8	国際コミュニケーション 1	あいさつ・文化習慣の相違
B9	国際コミュニケーション 2	語学習得について・TOEIC等の語学資格検定
B10	国際コミュニケーション 3	英語による自己紹介文・手紙(メール)の書き方
B11	国際コミュニケーション 4	英語による音楽用語・セミナー・コンクール等の要項を読む
B12	国際コミュニケーション 5	英語によるレッスン受講 1
B13	国際コミュニケーション 6	英語によるレッスン受講 2
B14	グループ討論	意見交換会(パーティー形式)
B15	総括	

C1	自己開発 1	自己分析・自己についてのエッセイ作成等
C2	自己開発 2	エントリーシート作成
C3	自己開発 3	自分の考えを述べる 1
C4	自己開発 4	面接 1(面接の常識等)
C5	自己開発 5	面接 2(模擬面接等)
C6	自己開発 6	自分の考えを述べる 2
C7	演習 1	茶道 1(日本伝統文化を学ぶ)
C8	ケーススタディ 1	レッスンを題材として 1
C9	ケーススタディ 2	レッスンを題材として 2
C10	講演 3	教育に関する講演(ゲスト講師による)
C11	ケーススタディ 3	グループを対象として
C12	ケーススタディ 4	グループを対象として
C13	講演 4	地域貢献活動等に関する講演(ゲスト講師による)
C14	演習 2	茶道 2(日本伝統文化を学ぶ)
C15	総括	

D1	PC 1	情報処理等解説
D2	PC 2	基本操作、情報検索
D3	PC 3	Word 1
D4	PC 4	Word 2
D5	PC 5	Excel 1
D6	PC 6	Excel 2
D7	PC 7	Word, Excel 復習
D8	PC 8	PowerPoint 1
D9	PC 9	PowerPoint 2
D10	PC10	PowerPoint 3 発表 1
D11	PC11	PowerPoint 4 発表 2
D12	食事のマナー 1	和食マナー
D13	食事のマナー 2	洋食マナー
D14	グループ討論	意見交換会(パーティー形式)
D15	総括	

何を学ぶにしても本当にその心を理解して会得するまでには、それなりに時間をかけなければならないであろう。しかしながら授業内で物事の取りかかりの糸口を作り、職に就いてからも自ら学び続けられるような仕組みを作ることが、長期的なキャリア教育に繋がると確信する。

そして、何より学生達が、学生期間に様々に与えられた環境と経験の一つ一つを大切な「キャリア」として認識することが重要である。同様に経験を積んでもそれぞれを何気なく通り過ぎてしまうのと、「キャリア」として認識するのでは結果に大きな隔たりが生まれるであろう。

本共同研究において、学生達が卒業後、音楽人としての人間力を備え社会進出し、本学における「礼・節・技の人間教育」が花開くための、魅力的な教育を学生に教授することの期待を現実的に捉え探究したことは、満開の桜を臉に見るような期待感と共に終えることとなった。

